

デュアルレースや雪上ゲームで熱戦
スキーイベント開催

親子で楽しむスキーイベントが、2月5日、共和のファミリースキー場で開催されました。

冬季オリンピック3回出場の川端絵美さんによる、幼児から中学生対象のワンポイントレッスンや、旗門が設置されたコースを二人同時に滑走するデュアルレース、雪上ゲームなど、雪に親しむ様々なイベントが行われ、参加者は好天の下で冬の一日を楽しみました。

交流企画のタイヤチューブリレーでは、親子・友だち等がペアとなってスピードを競い、息の合ったコンビネーションを見せていました。



津別町・二水郷中学生交流事業
台湾訪問団が帰町報告

1月26日、平成28年度津別町・台湾二水郷中学生相互交流事業による友好都市・二水郷訪問団が、町長室を訪れ帰町報告を行いました。

交流事業に参加した中学生6名（いずれも2年生）と引率者の宮管教育長、津別中学校・可児校長、同・柴田教諭は、1月8日から5泊6日の日程で台湾を訪れ、二水郷の中学生らと様々な交流を行いました。



生徒らは、「大歓迎を受け、人の温かさを感じた」「日本との文化の違いを感じた」「吹奏楽や歌の音楽交換が楽しかった」などと述べ、国際交流の意義を実感したようです。

tt o w n i c s

まちのわだい

強風に負けず奮闘
スケートイベント開催

1月28日、スケートイベントが町民スケートリンク（津別小グラウンド）で開催され、小学生から一般まで幅広い年齢層の参加者が、個人スケート記録会や4人1組でのチーム対抗リレーに出場しました。

タイム計測では50メートルから1000メートルまで、学年と力量に応じて1人2種目までエントリーし、強風の中、精一杯の滑りを見せ



てくれました。スケートの後には、レクレーションの氷上綱引きや人間カリーングも行われ、寒さに負けずに氷上のイベントを楽しみました。

朝日生命労働組合釧路支部の社会貢献活動
町内福祉施設へタオル135本を寄贈

朝日生命労働組合釧路支部から町内の福祉施設へタオルの寄贈があり、2月9日、津別町社会福祉協議会事務局で贈呈式が行われました。

朝日生命では2月を「まごころの月」に制定しており、これに合わせ同社労組の社会貢献活動の一環として、毎年2月、釧路支部管内の社会福祉協議会にタオルを寄贈しています。

この日、支部を代表して美幌営業所の平岡博子さんと菅野紀子さんが持参したタオルは、社会福祉協議会を通じていちいの



左から菅野さん、平岡さん、津別町社会福祉協議会・原田会長

消火栓、防火水槽の除雪にご協力いただき
ありがとうございます

消火栓や防火水槽は、消火活動に必要な水を消防車両に供給するために備えられた重要な消防施設です。

消防署では、冬期間職員と団員で町内を回り除雪作業を実施しておりますが、付近住民のご協力により、消防施設が除雪されている箇所が多数あります。

付近住民の皆様には、消防業務へのご理解とご協力を



いただき消防職員、団員一同心から感謝しております。
〈津別消防署・津別消防団〉

地域おこし協力隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。

40 はじめてのつべつの冬

田畑久美子

Neo Folk プロデューサー。東京新宿生まれ。カナダBC、山梨県生活を経て、ワクワクを胸に相生移住1年生。

早いもので、相生に移住してからもうすぐ1年が経とうとしています。

秋ぐらいから「冬はしばらくのよー」雪の量にとまどうかもしれないね」とご近所の方に言われていたので、10月ぐらいからちらちらと垣間見える冬將軍の姿に怯えていました。

11月に根雪が降って一気に気温が下がった日は、体がショックを受けて「これで冬の入り口!?! 真冬になったらどうなっちゃうんだろ!?!」と不安を感じるほどでしたが、過ぎてみるとそれはほんの一瞬でした。

厳寒期はマイナス20℃を下回る気温でしたが、不思議なもので、2月にもなる」と寒さと雪に慣れてきて、マイナス10℃前後の日だと「暖かいな」としみじみ感じようになりました。新ス

トープのおかげで室内ではTシャツで過ごしています。週末は1週間分の薪運びやスノーシューハイキングでひと汗かいてから、野中温泉に温まりに行くのがマイブームです。不思議な音をたてて凍っていく湖や雪景色の中の満点の星空は、宇宙の深淵を覗いているような感覚になります。

一冬を振り返ってみて、どんなに寒い冬でも楽しいことはたくさんあって、工夫次第で快適に過ごすことができることを学びました。冬の到来に怯えることはもうありません。

日照時間がだいぶ伸びて春の気配がうつすら漂いはじめました。雪解けとふきのとうが春の訪れを告げるまで、あと少しこの寒さを楽しみたいと思っています。